

疫学（臨床）研究 実施 についてのお知らせ

大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学

【研究課題名】

ターナー症候群女児における乳幼児期の身長推移に関する研究

【研究期間】

倫理委員会承認後(2017年1月) ～ 2017年12月31日

【研究の意義・目的】

(1) 目的

ターナー症候群女児では幼児期から成長が停滞し低身長をきたすことが明らかになっている。本研究は既報よりもさらに早期の乳幼児期の身長推移の傾向を明らかにし、早期診断の一助となる指針を策定することを目的とする。

(2) 意義

ターナー症候群女児の多くは低身長をきたす。過去には早期幼児期は正常な成長を示し、後に成長率が低下してくると言われていた。しかし近年、低身長は意外に早期から発生することが明らかとなった(添付資料)。成人身長予後の改善のためにはより早期の診断と成長ホルモン補充が必要である。しかし実際には、診断が遅れ、低身長が重度になって初めて診断される症例が存在する。日本では3歳時健診以降の公的な健康診断は就学前まで存在せず、3歳までの成長記録から適切に早期診断する方策が重要と考えられ、本研究の目的の1つとしている。また既報では1歳未満の乳児期ターナー症候群女児の身長推移を論じたものは乏しく、成長曲線も存在しない。乳児期の身長推移そのものの傾向を明らかにすることも本研究の重要な意義であると考えられる。

【研究の方法】

当院受診歴のあるターナー女性のうち、2016年12月22日の時点で出生時および、1ヵ月時、3ヵ月時、1歳6ヵ月時、3歳時のいずれかの身長・体重の記録が診療録で確認できる症例を抽出し、当院に保管された診療録を後方視的に検討する。

【研究組織・研究代表者】

大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学
所属 小児科・新生児科 講師 氏名 濱崎 考史

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：濱崎考史

住所：大阪市阿倍野区旭町 1-5-7

電話：06-6645-3816

FAX：06-6636-8737

E-mail：hammer@med.osaka-cu.ac.jp